

あきたりな郊外の風景だった

## 葉を花を想像できるか

「東京電力廃炉資料館(旧エネルギー館)(福島県双葉郡富岡町)」デジタル銀塙プリント、銀箔、アクリルパネル 40×60 サイズ 2019Yutaka Kikutake Gallery 小林エリカ「野鳥の森1F展」より



ちょうど、チエルノブリで魔壘化したアリビーナの遊園地のような光景。私はそんなのを想像していたのかかもしれない。だが、現実の私の目の前にあったのは、嘗葉中のスーパー・マーケットなどに入る「やべいモール」とみおかで、それ以来、

福島県いわき市から国道6号線を進んでいくと、沿道に立ち並ぶ家には未だ人の気配がないもの多く、門の前に柵がつけられ、植物が大いに伸びていて、まるで目について、町はどこか閑散として見えた。構内視察に際して事前の説明を受けるため、まさに町の面積の大部分が避難区域解除になつたばかりの富岡町にある福島第2原発旧エネルギー館へ到着し、私はあたりを見回す。回転寿司アームはその看板を残してしまって閉店していた。しかし、それから、私は感動した。

あたりを闊歩する野生動物たち、瓦礫の山に生い茂る植物、まさに、チエルノブリで魔壘化したアリビーナの遊園地のような光景。私はそんなのを想像していたのかかもしれない。だが、現実の私の目の前にあったのは、嘗葉中のスーパー・マーケットなどに入る「やべいモール」とみおかで、それ以来、

あきたりな郊外の風景だった

小林エリカ「思索のノート 見えないものを見に - かつての「野鳥の森」」『信濃毎日新聞』

信濃毎日新聞 2019年2月9日 文化11面

## 思索のノート



小林エリカ (11)

## かつての「野鳥の森」

脳には、数本だけ残された桜の木が、満開の花を咲かせていた。今はなきその森に咲いていたの

一昨年の春、かつて「野鳥の森」と呼ばれた場所を訪れた。その場所は、東京電力福島第1原発電所の構内にある。

福島県いわき市から国道6号線を進んでいくと、沿道に立ち並ぶ家には未だ人の気配がないもの多く、門の前に柵がつけられ、植物が大いに伸びていて、まるで目について、町はどこか閑散として見えた。

構内視察に際して事前の説明を受けるため、まさに町の面積

の大部分が避難区域解除になつたばかりの富岡町にある福島第2原発旧エネルギー館へ到着し、私はあたりを見回す。回転寿司アームはその看板を残してしまって閉店していた。しかし、それから、私は感動した。

あたりを闊歩する野生動物た

ち、瓦礫の山に生い茂る植物、

ちょうど、チエルノブリで魔

壘化したアリビーナの遊園地

のような光景。私はそんなの

を想像していたのかかもしれない。

現実の私の目の前に

あったのは、嘗葉中のスーパー

マーケットなどに入る「やべい

モール」とみおかで、それ以来、

あきたりな郊外の風景だった

から。私は自分の考えの浅はかさに恥じ入った。そもそも放射能は目に見えるものではないの

だ廃墟など、ただの記憶にす

ぎない。それは私が暮らす場所

と地続きで繋がっているのだ。

ところで旧エネルギー館の外

観は、予想以上にファンシーだ

った。話を聞けば、それはアル

ベルト・айн・シュタイン・マ

リ・キヨリ・、トマス・エジン

ンというエネルギーを巡る科学

到着した構内は、ひんやりで

涼しげな構造で、

見渡す限り、

見わたす限り銀色に覆われ

た。近未来的映画のような光

景だった。

地面に木や雑草が生い茂つて

いる、そこに放射性物質が付

着し、放射線量が高くなりやす

い。そこで、木を切り倒し、あ

たりを銀色のモルタルで塗り固

めたのだと。そして放射

線量は随分下がったそうで、私

が見学の際手渡されたのは、防

護服でもマスクでもなく、両手

にはめるコットンの白い手袋だ

けだった。

勿論、原子炉の建屋は鉄骨が

剥き出しになつたままであり、

その周辺の放射線量は依然とし

て莫大なものであったが、それ

以外の放射線量は、事実さほど

高くなかった。

その後、作業員の方たちが休

憩したり食事をとつたりする9

階建ての施設を案内してもらつ

た。上階の丸窓から、海まで

つ、あたり一帯を見渡した。

そこは、かつての「野鳥の森」

を、私はこれまで想像す

ることがやさしからなかった。

かつてそこに存在したはず

の、植物たちひとつひとつ

を、茎を、花を。

（作家、漫画家）

（第2回展に掲載します）